

初めての収穫、結果は？ ～園芸品目試作のその後

玖珠町浦河内地区では前述のサトイモの他にもニンニク、カンショ（サツマイモ）の試作が集落営農組織によって行われました。

（農）田の口（玖珠町戸畑田の口）で試作されたニンニクは令和元年10月の植付けから始まり、令和2年5月に収穫され、農協での乾燥委託を挟んで6月に調製・出荷されました。令和2年産のニンニクは地域全体で中心球（通称「スポンジ球」）の多発による歩留りの低下が目立ち、（農）田の口の試作でも単収が500kg/10a未満と目標の半量程度にとどまりました。スポンジ球発生要因としては冬場の高温の影響が大きいとされており、2年目の本年は品種や施肥の見直し等の対策を実施して改善を図っています。

（農）わいわい元気村（玖珠町戸畑山中）ので試作されたカンショは令和2年5月の植付け後の生育は順調に経過し、10月に収穫されました。現時点（本記事作成時）では貯蔵中のため実績が確定していませんが、目標水準に近い単収が得られたと推察されます。今回の収穫は人手によるところが大きかったですが、作業機械の導入が検討されるなど2年目の改善に向けた議論も地元では進んでいます。



ニンニク調製の様子（R2.6.25）



カンショ収穫作業の様子（R2.10.14）

米はここ2年不作が続いた一方で、全国的には供給過剰により価格が下落する傾向にあります。水稲作以外にもしっかりした経営の柱をもつことが今後の水田農業経営には不可欠であり、園芸品目の果たす役割はますます高まってくると思われます。この試作を本作化につなげられるよう今後も取組みを進めていきます。

ウンカ等の病害虫や気象災害情報などをお知らせしています

県の病害虫に関する試験研究部門”大分県農林水産研究指導センター農業研究部・病害虫対策チーム”はインターネットのホームページを運営しています。本年大きな被害を及ぼしたトビイロウンカ等病害虫多発の注意報や警報等の発令状況や病害虫防除の技術情報などが、いち早く発信されます（*水稲だけでなく園芸品目も対象です）。まだ利用されていない方はこの機会に是非活用ください！（*携帯の場合は右の2次元コードから、パソコンの場合は <http://www.jpnp.ne.jp/oita/> からアクセスしてください。）

また、振興局では水稲作を中心に病害虫や気象災害情報などメール配信を行っています。一度アドレスを登録いただければ随時最新の情報をお届けします。上記のホームページと合わせて情報収集に是非ご利用ください！（*メール配信を希望される方は nosan-seibu@pref.oita.jp宛てにお名前、お住まいの集落名をご記入の上、送信してください。）

作成・発行 大分県西部振興局生産流通部 集落営農・農地活用班

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL：0973-23-2217 FAX：0973-23-3473



集落営農かわら版

令和3年1月1日 VOL. 35

大分県西部振興局生産流通部
大分県集落営農推進西部支部

トビイロウンカの被害と対策

【トビイロウンカとは】

水稲の害虫であるトビイロウンカは、6～7月の梅雨時期に下層ジェット気流に乗って中国から飛来します。飛来後、3世代かけて増殖し続け、栽培後半に「坪枯れ」被害を引き起こします。

【今年の被害】

令和2年産の水稲では、トビイロウンカの被害による「坪枯れ」により大きな被害がありました。特に、これまで被害をほとんど受けなかった早生品種の「ひとめぼれ」や「つや姫」で大きな被害がありました。

大発生の原因としては、例年に比ベトビイロウンカの飛来が早かったことに加え、梅雨明けが遅く、長期にわたり梅雨前線が停滞したことによりトビイロウンカの飛来回数が多かったこと、更に、8月に気温が高く、降雨が少なかったためにトビイロウンカの増殖しやすい環境であったことによるものと考えられます。

【最も有効な防除対策】

トビイロウンカは、飛来時期や気象条件により増殖の年次変動が大きく、適期防除が難しい害虫です。飛来成虫を防除し、トビイロウンカの増殖を抑えるためには、苗箱への施薬が最も有効な防除方法となります。近年、効果が長続きする苗箱施薬が発売され、優れた防除効果が認められています。苗箱施薬と基幹防除でトビイロウンカの被害を抑えましょう。

長期残効の苗箱施薬の例

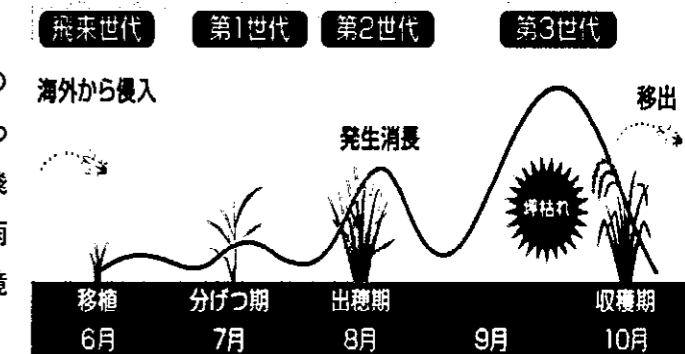
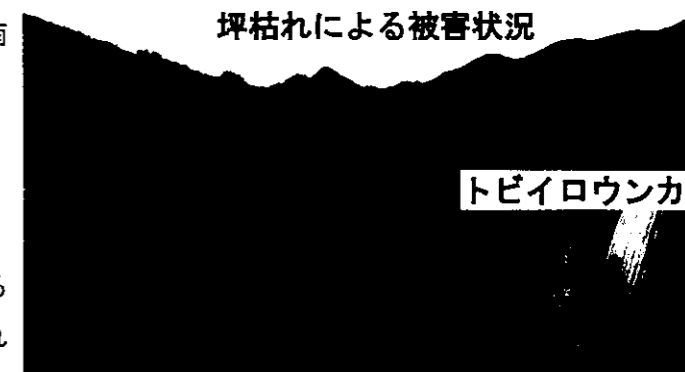
アンコール箱粒剤	防人箱粒剤
サンエース箱粒剤	サンスパイク箱粒剤
スクラム箱粒剤	ゼクサロンパディート箱粒剤
箱将軍粒剤	箱維新粒剤
ビルダーフェルテラゼクサロン粒剤	ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤
フルスロットル箱粒剤	フェルテラゼクサロン箱粒剤

☆有効成分：トリフルメゾピリム（通称：ピラキサルト）を含む薬剤

☆薬剤の選定にあたっては、栽培暦などJAや販売店の情報を参照してください

長期残効の苗箱施薬を必ず規定量施用し、トビイロウンカの被害を防止しよう！

坪枯れによる被害状況



出典：ピラキサルト技術資料

水田畦畔省力管理研修会を開催しました

大分県の耕地面積に占める中山間地は、約70%と全国有数であり、中でも西部管内は、一部盆地があるものの大部分は山間地の河川沿いに水田が広がっていることから、耕地に占める畦畔の割合が高くなっています。そのため、畦畔管理に要する労力負担が大きく、経営規模拡大あるいは経営継続の阻害要因になるなど、その管理の省力化が大きな課題となっています。

近年、畦畔管理に関して、様々な技術が開発されているとともに、各農機具メーカーより安全かつ省力的に作業ができる草刈り機が発売されています。

そこで、9月11日に水田農業で最も過酷な草刈り作業の省力化を目的として、新たな技術を生産者の皆様に普及・啓発するために研修会を開催しました。

研修会は、新型コロナウイルス感染防止を図るため、参加者を室内研修と室外研修の2班に分けてそれぞれ入れ替える形式で実施しました。

室内研修では、法面の中腹に機械を用いて作業道を作ることによる作業の安全性の向上や効率化、畦畔にセンチピートグラスなどの被覆植物を植えることによる草刈り作業の省力化の事例報告、農薬（抑草剤）を使用して草刈り回数を減らす方法などの説明をしました。

また、今年度水稲において大きな被害をもたらしたトビイロウンカの今後の対策について、発生状況の確認方法や追加防除の必要性についての説明をしました。

室外研修においては、効率的に作業を行うことのできる様々な機械の説明及び実演を行いました。中でも注目を集めたのは、ラジコン式の草刈り機です。この草刈り機は、クローラーで走行するため傾斜角45度まで作業を行うことができます。高価な機械ではありますが、中山間地域等直接支払交付金の協定集落などで共同で使用することにより大変な作業からの解放が図られますので検討してみたいかがでしょうか？

参加者からは、「いろいろな機械があり参考になった」、「これまで見たラジコン草刈り機の中で一番使えそうだけど高い」といった声が聞かれ、中には、草刈り機の購入を決めた方もいました。

振興局では、今後とも農作業の省力化、経営規模拡大につながる情報発信を行っていきます。

管理用の作業道の作成（豊肥振興局の事例）



ラジコン式草刈り機の実演状況



地域農業経営サポート機構認定証交付式が行われました

11月19日、大分県庁で地域農業経営サポート機構認定証交付式が行われ、九重町地域農業サポート協議会（代表：手島政弘氏・写真前列左から2番目）、玖珠町地域農業サポートセンター（代表：大野元秀氏・写真前列右から2番目）が新たに認定を受けました。

大分県では担い手不足集落の対応や担い手の効率的な営農・就農支援など、総合的に地域農業をサポートする「地域農業経営サポート機構」の設立を推進しており、平成28年から既に12市12団体が認定を受けています。

各団体の取組概要について説明を受けた大友農林水産部長（写真前列中央）は「幅広いエリアの農業のサポートを期待しています。まずは組織の体制を整えていって欲しいです。」とあいさつしました。

両団体とも、運営体制を整えていき、いずれは九重町、玖珠町全域を対象とした活動ができるような体制を目指していく予定です。



地域農業経営サポート機構認定証交付式（大分県庁にて）

サトイモ省力化機械現地実演会を開催しました

11月9日、玖珠町浦河内地区にて『サトイモ省力化機械現地実演会』を、サトイモ生産者、関係者参加のもと開催しました。令和2年度からサトイモは、九重町・玖珠町において、水田における高収益推進品目に位置づけられ、生産面積の拡大が図られています。当日は、豊後大野市などの県内サトイモ主産地ですでに導入されている生産機械を中心に、メーカーによる機械説明・実演とともに、令和2年産サトイモの試食（石川早生、日田1号、大和の3品種比較）が行われました。関係機関では、生産振興による所得拡大を確実に実現してもらうため、調製機械を含めた生産体制整備を行うよう計画しています。また、浦河内地区の集落営農組織では、生産性向上のため定植機やマルチ張り機の導入が予定されており、他の生産者と協力して機械を活用していきたいとの話がありました。サトイモ生産に関心のある方、当日の資料が必要な方等は、振興局生産流通部までご連絡ください。



掘り取り機実演の様子

○紹介・実演された機械

- | | | | |
|---------|------------------|----------|----------------------|
| 1. 収穫作業 | つる切り機（歩行型） | 茎葉の粉碎 | （現状・・・鎌で刈取り・持出し） |
| | マルチ剥ぎ機（トラクター装着型） | マルチの除去 | （現状・・・手作業による剥ぎ取り） |
| | 掘り取り機（トラクター装着型） | 掘り取り作業 | （現状・・・スコップなどによる掘り取り） |
| 2. 調製作業 | 根切毛羽取り機 | 根・毛羽の除去 | （現状・・・手による取り除き） |
| | 選別機 | 大きさ別の選別 | （現状・・・手作業による選別） |
| 3. 植付作業 | トラクター装着型マルチ張り機 | 畝立・マルチ張り | （現状・・・歩行型マルチ張り機） |
| | 歩行型半自動定植機 | 定植作業 | （現状・・・手植え作業） |